

## 杉本博司評議員コメント

### ○ 世界への発信力の強化について

- ・ 世界への発信は、その果実は日本に返ってくるのであるから、そのことを念頭に事業をしっかりと構築すべきである。
- ・ 伝統芸能を発信力あるものにしていくためには、古典と現代ものを分けて考えるのではなく、それぞれを融合させて作っていくことが必要なのではないか。
- ・ 杉本文楽は、古典を厳格に再現したり、または再構成したり、人形の衣装をコンテンポラリーなものにしたりと、誰も観たことのない文楽になった。
- ・ また、ニューヨークを拠点に活動するアーティストの池田亮司氏が、マンハッタンの「アーモリー」と呼ばれる旧兵器庫を改修した施設で実施したインスタレーションは、音楽・アート・映像・演劇のどの分野の要素も取り入れたパフォーマンスで、非常に興味深いものだった。
- ・ 分野に縛られることなく自由に飛び越えることで、芸術表現は、新たな魅力を創造し続けることが可能である。発信力を強化する一つの方策となりうる。

### ○ 都立文化施設について

- ・ 東京にこれだけの資源があり、これらを活用すれば相当の発信力のあるものができるはずである。
- ・ 例えば、各館が単独で事業実施するのではなく、統一テーマを設定し、館の連携によるプロジェクトとして展開することを検討すべきである。プロデューサーは、世界の第一線で活躍するキュレーターを呼ぶことで、より発信力を高めることも可能である。また、東京文化発信プロジェクトとの連携も図ると、さらに、効果的である。